

# 大倉山講演会



## 実業家の社会貢献とその理念

月 日	演 題	講 師
平成29年 3月18日(土)	御木本幸吉の二宮尊徳顕彰	報徳博物館学芸員 飯森 富夫
4月15日(土)	江戸時代の商人に見る 企業の社会貢献活動の源流	関東学院大学教授 小山 巖也
5月20日(土)	「雪印」と「森永」の創業者 —キリスト教社会貢献論—	当財団客員研究員 峯岸 英雄
6月17日(土)	ゲンゼ・クラボウ・カネボウの経営者 —明治期企業家の経営思想にみる報徳思想とキリスト教的価値観の融合—	法政大学教授 長谷川直哉

大倉精神文化研究所を創立した大倉邦彦は、紙問屋を経営する実業家でした。大倉は、自分は何のために生きているのか、何のためにお金を儲けるのか、儲けたお金をどのように使うべきかを真剣に考えました。そのたどり着いた答えが教育事業や精神文化事業でした。大倉は、これを天から与えられた自らの使命と考え、精神文化事業を通して、社会を良くしたいと考えました。

今日、海外企業からの影響で、企業のフィランソロピー(慈善活動、社会貢献活動)やメセナ(文化支援活動)などの必要性が叫ばれていますが、日本国内にも古くから神道、儒教、仏教等の教えから派生した社会貢献活動の考えがあり、江戸時代には石門心学に代表される町人道徳も形成されていました。

近代日本の実業家の中には、国内外の思想的背景を元に、様々な社会貢献活動を展開した人物が数多くあげられます。その中には、大倉のように会社経営と社会貢献活動を分けて考えた経営者と、会社経営そのものを社会貢献と考えた経営者がいました。

今回の大倉山講演会では、企業経営で成功しただけでなく、社会貢献活動においても活躍した実業家を取り上げ、それらの人々が、いかなる社会貢献を、どのような思想、理念に基づき実践したのかを学び、その上でそれらを学ぶことの今日的課題について考えることといたしました。

本年は、その第2年目であり、来年も継続する予定です。

会 場：大倉山記念館ホール (東急東横線大倉山駅下車、徒歩7分)

時 間：午後2時～3時30分 (開場は午後1時40分から)

定 員：80名 (予約なし当日先着順) 聴講無料

問合せ：公益財団法人大倉精神文化研究所 横浜市港北区大倉山2-10-1 ☎045-834-6637

Eメール okuraseishinbunka@js6.so-net.ne.jp ホームページ <http://www.okuraken.or.jp/>

主催：公益財団法人大倉精神文化研究所 共催：横浜市大倉山記念館指定管理者

7月8日(土) 公開講演会を愛知大学との共催で開催する予定です